第4232号

上毛新聞 シャトル 館林ニュース

エリアデスク 市町 林倉 館板 町和 町田 町代 千楽 邑

2008年 8月15日（金）

発行所（〒371-8666）
前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
編集局 027-254-9933（代表）
シャトル編集室
（〒374-0024） 館林市本町3-8-34
編集 0276(74)8800 FAX 0276(74)2882
広告 0276(74)7411 FAX 0276(74)2262

©上毛新聞社 2008年

シャトルは地域情報の発信基地 情報は ⑦④ 8000

野生の虎 保護も

使いやすく色も4種類

タイガースのロゴ入りエコバッグ

プロ野球阪神タイガースのロゴが入った「トラカムバック」。Sサイズは小物や弁当箱入れとして、肩からかけるLサイズは、ちょっとした買い物に使いやすいエコバッグです（S2800円、L5400円。どちらも色は4種類あります）。

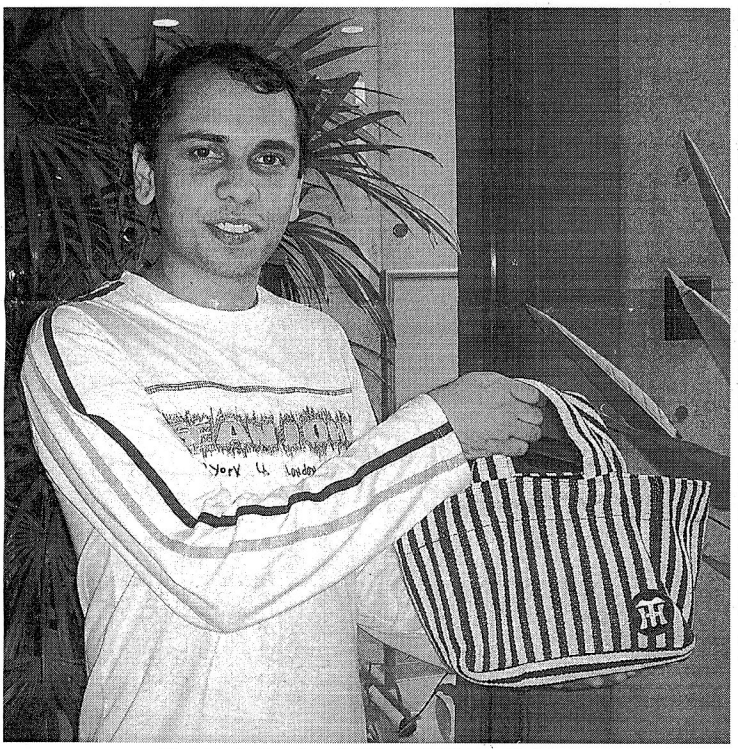
このバッグは、日本を代表する国際協力NGOのシャプラニールが、ネパールにある女性技術開発プロジェクト（Women's Skill Development Project）と組んで作りはじめました。この団体は、低カースト、障害者、ハンセン病の患者さんといった、より厳しい状況にある女性を優先的に採用し、生活をサポートしています。バッグを買うことによって、これらの人たちの仕事が安定し、自立支援につながります。バッグ1個に使う布を織るのに2日間かかりますが、その賃金で米を4キロ買えます。

このバッグがユニークなのは、特定非営利活動法人「野生生物保全論研究会」（JWCS）を通じて、売り上げの一部が野生のトラの保護活動にも寄付されている点です。「野生の虎よ戻ってこい（トラ、カムバック）」とのメッセージを分かりやすくアピールするために、阪神タイガースの承認を得て同チームのロゴがつけられています。2007年～08年のシーズン限定商品として昨年8月から販売が始まり、多くのマスメディアにとりあげられ、これまでに1500個が売れているそうです。

私たち人間の活動によって、野生動物が次々と絶滅の危機にさらされていますが、野生のトラも現在地球上に5000頭しか残っていません。その多くはネパール、インド、バングラデシュなどの南アジア諸国に生息しています。しかし、トラの毛皮や骨などを売り、ちょっとした稼ぎを目的とする密猟により、トラの数は今でも減り続けています。

昨年の売り上げからは、現地の野生生物保護レンジャーへ、パトロール用装備25個分に相当する寄付ができたそうです。

推薦者 ボズ・ラズ・パウデルさん（3年）
（ネパール人留学生）



「トラカムバック」を手にする筆者のボズさん

19日から館林

途上国の生産者支援

フェアトレード商品販売

2008 お買い物で国際協力

東洋大学国際地域学科

「お買い物で国際協力」をキャッチフレーズに、板倉町の東洋大学国際地域学部国際地域学科の学生たちが、19日から24日まで館林市楠町のつつじの里ショッピングセンター（アピタ）いこいの広場で、フェアトレード商品の販売に取り組む。初日は午後1時から、20日からは午前10時から午後9時。

フェアトレード（公正取引）は、発展途上国の生産者や労働者に利益をもたらし、その人たちの自立に配慮した商品の取引を提供するもの。定期的に商品を輸入し販売することで、小規模農家や手工芸品職人に継続的に仕事の場を提供できる側面もある。

今回で3回目を迎える同大国際地域学科の取り組みには、ボランティアの学生ら約20人が参加する。

学生を指導する子島進准教授は「多くの方々にご支援いただき、過去2回の売上総額は100万円を突破しました。ネパール、フィリピン、ペルーといった世界各地の生産者が丹念に作り上げた商品を、今年も多数用意しています」と来場を呼び掛けている。

学生たちが選んだ「一押し商品」を紹介する（次回以降は2面で掲載予定）。